

▼第2次栃木市観光基本計画 進捗確認表

基本目標5 総合マネジメント		実施スケジュール							内部評価		
		進捗	内容（取組状況・課題）					コメント			
基本施策		単位施策	具体的な方策	R5	R6	R7	R8	R9			
1	全市一丸となった観光プロモーションの推進	各地域の個性ある魅力の積極的な情報発信	ターゲットを捉えた観光情報の発信						一部着手	のほほん連絡協議会では若い女性をターゲットとした企画・イベントを行っている。また、「城跡を活用した分科会事業」で歴史マニア向けの企画を検討している。	・明確なターゲットを設定や観光テーマの設定はリピーター獲得につながり益々の進捗を期待します。
		立地を最大限生かした観光プロモーションの展開	首都圏を中心とした観光PRの実施						着手	スカイツリーアンテナショップ（とちまるショップ）や日本橋イベントスペース・大宮駅にて観光PRを行なった。有効なPR活動場所の選定が今後の課題である。	・PR活動は難しいですが活動する事で知名度が上がると思います。 ・誘客ターゲットからの観光PRが重要だと思います。 ・PR場所をどのように選定しているのか？とちまるショップや大宮駅はよいと思う。
2	総合的地域ブランドづくりと観光資源としての活用	総合的ブランドの創設	ブランドづくりに向けた関係事業者との連携体制強化						未着手	特産品と、歴史・文化、自然、体験などのコンテンツをPRしていくとともに事業者との連携を図っていく。	・栃木市と言えば〇〇〇のような土産品やブランドの確立は必至。 ・栃木市には歴史・文化・自然など様々な観光資源があります。平成の大合併の影響もあり、何かに特化したブランド作りには難しい側面もあると思いますが、ぜひ作り上げていきたいものです。 ・「るるぶ栃木市」の発行が2014年作り直してもよいかも。ぜひ栃木市歴史マップと連携・利活用を通してルートの検討を図る。
		特産品等の総合プロモーションの展開	関連計画等所管部署との連携体制強化						着手	観光イベントに農産物やプロスポーツのPRブースを出展したり、農業関係やスポーツ関係のイベントにて観光PRを行うなど各所管部署と連携し栃木市の魅力向上を図っている。	・栃木市の二条大塚などはもっとPRできないかと思えます。農業×観光など部署間を横断した連携強化も期待します。 ・「いちご」に加え「ぶどう」関連も特産品としてブランド化を図る。
3	観光資源・施策等の適切な管理・取組の継続	顧客満足度の把握と問題点等の分析・反映	観光動態調査の実施						一部着手	来訪者の興味・関心の把握や宣伝方法を改善するため、イベント開催時に来場者アンケートを実施している。また、それぞれのアンケート結果を集約し、分析結果を観光協会と共有していく。なお、次回計画策定のため、令和8.9年度に市内外への調査及び市への観光客への調査を実施予定している。	・来訪者アンケートの実施やその結果を観光協会と共有し、次回計画策定に向けた調査を予定している取り組みは、観光戦略の継続的な改善に繋がります。データに基づいた意思決定は、観光業の発展において重要な役割を果たします。
		クレームや意見等の一元管理	集約したクレームや意見等の情報共有システムの構築						着手	クレームや意見等をデータ化し、観光協会や当該施設と共有し、改善に活かしていく。	・クレームは改善の指標であり、それが観光資源のさらなる磨き上げにつながると考えます。
4	観光アドバイザーの活用	専門的人材の活用	観光アドバイザーによる研修実施						着手	空き家・空き蔵を改装し観光施設として利活用している方を講師に招き、市内観光事業者や空き物件所有者向けのシンポジウムを開催した。	・空き家・空き蔵を利活用したあたらしいビジネスが生まれてきています。ぜひ推進を図っていただきたいです。 ・蔵の街並みは最も重要な観光資源の一つであると思われる。増え続ける空き蔵の問題は深刻。各部署が連携して、本腰を入れて対応してほしい。 ・シンポジウム開催等、市の取り組みの効果を知りたい。
		大学との連携	関連大学との連携体制の強化						着手	「持続可能な観光まちづくり」に関する協定を締結している國學院大学や、栃木の実情をよく知る宇都宮大学と、市の課題を研究テーマに対し連携し取り組んでいく。	・当事者として更なる取り組みを推進します。
5	脱炭素化の取組	エコツーリズムの推進	エコツーリズムメニューの開発・実施						着手	ラムサール条約登録湿地である渡良瀬遊水地の自然を体感し、成り立ちの歴史を学ぶため、エコツアーモデルプランを作成した。他の自然資源を活用したメニューの開発・実施を検討していく。	・栃木市には教育旅行（修学旅行や遠足、校外学習など）の誘客にまだまだ伸びしろがあると考えます。SDGsなどを含めた学校への提案の推進が必要です。
		脱炭素化に対する意識の醸成	脱炭素化に向けた研修の実施						一部着手	市民団体や事業者の会議開催時に講師を派遣し、脱炭素化に向けた講習会を開催している。また、栃木市出前講座の中で環境講座を開催している。その他に各イベントにてPRブースを設置し、普及促進を図っている。	・観光における脱炭素化の取り組みも急激に高まっていると感じます。 ・施設等に関する項目の明確化を図る。
6	デジタル技術の活用	デジタル技術を活用したデータの管理	栃木市観光資源データベース「蔵ナビ!」を活用したデータの管理						一部着手	「蔵ナビ!」に送られる施設にかかる意見を確認し、観光協会等と共有することに留まっている。今後は、データにて集約し、関係施設と共有できるように検討する。	・データの整理や分析体制を整備し、施設間で情報を積極的に共有することが重要です。また、集約したデータを基に、実際の改善に繋げるためのフィードバックシステムを確立することで、地域全体の観光施設のクオリティ向上が期待できます。
		デジタル技術を活用した観光情報の発信	ホームページ、観光関連サイト、アプリの内容の充実						一部着手	本市の公式HPでイベント等の情報を発信している。今後は、栃木市散策ガイドアプリ「蔵ミュゼ」を活用し、スタンプラリーを実施する。	・「蔵ミュゼ」を活用したスタンプラリーは、観光地の周遊促進に有効であり、観光客にとっても新たな体験を提供する機会になります。アプリの利便性や利用促進、他のイベントとの連携を強化することで、さらに効果的に観光資源を活用し、地域の活性化に繋がるでしょう。 ・インスタグラム、TikTokも活用しては？